

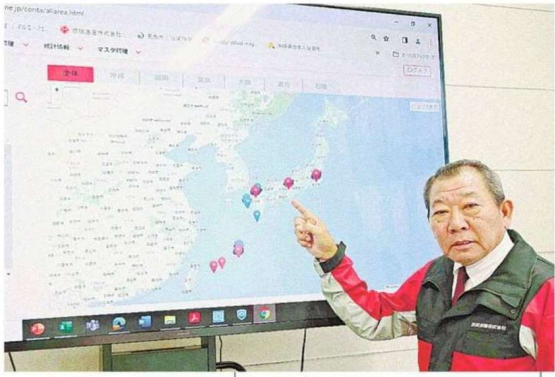
コンテナ位置「見える化」

GPSで追跡 荷待ち短縮

人手不足の時代
妙手^⑨

琉球通運

「今、そちらに、うちのどのコンテナが何本ありますか？」
県内外に青果や花卉などを輸送する琉球通運(那覇市)のコンテナ管理担当者、自社のコンテナがどこにどれだけあるかを探すため、港運会社や運送の提携会社へ電話をかける。これ



コンテナの位置が見える化し、作業の効率化に取り組む琉球通運の喜納秀智社長。モニターの赤いピンは滞留して4日以上コンテナを示している=9日、那覇市の同社

琉球通運の冷蔵コンテナ。後部内側にGPSとSigfoxの端末が付いている



まで、荷を届けた後の空になったコンテナの位置と数を常時把握できているわけではない。物流は必ずしも自社だけで完結しないからだ。
例えば県内で集荷した青果を県外に出す場合、青果が積まれたコンテナを港まで運ぶのが琉球通運の仕事だ。海上輸送は港運会社、到着した港から問屋などの物流センターまでの陸上輸送は提携する物流会社が担っている。
空いたコンテナは港や提
携先の物流会社の施設などに戻すが、コンテナの所在を随時やりとりすることはないという。港には大量のコンテナが集まる。
そのため、必要に応じて電話や、沖縄本島内であれば実際に足を運び、目視で確認することもあった。
県外に渡ったコンテナは、荷を積んで帰ってくるのが理想だ。そのためには需要があった時に確実に必要な数のコンテナを確保しなければならぬ。
だが、電話では、相手先がコンテナを確認するためには数時間かかることも珍しくなかった。輸送が1日遅れたり、場合によっては機会を逃したりすることもあったという。
そこで、同社は衛星利用測位システム(GPS)と省電力で長距離通信が可能な「Sigfox(シグフォックス)」という端末を冷蔵コンテナ179台に装着。コンテナの位置を「見える化」する。県内初の取り組みを始めている。
パソコン画面で、コンテナの現在地がリアルタイムに一目で分かり、滞留して4日以上コンテナは赤いピンで表示される。
物流業界は、残業規制の適用で運転手不足の深刻化が懸念される「2024年問題」に直面しており、作業の効率化や生産性の向上が課題となっている。システムの導入で、同社では効率的に配車することで、限られた人員を有効活用できるようにになった。
また、荷を積み降ろす間の運転手の「荷待ち時間」短縮が求められる中、システムを共有し、届け先に到着する時間を調整できれば、改善も期待できるという。同社は、AIによる配送ルートの見直しにも取り組んでいる。

喜納秀智社長は「人手不足の対策には、デジタル化による作業の効率化が欠かせない。それが生産性の向上やドライバーの所得向上にもつながる」と話した。
(政経部・大城大輔
川木士隆日に掲載します)